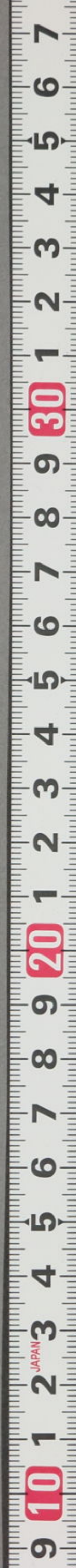




和漢朗詠集 卷上







和漢朗詠集は昔一様帝は御令に四條大納言
 任卿の尊とせられし日本とありし中華と
 漢といふは我日本の歌とよみ思ふと本邦人の
 詩ははるかに志といふれられたる如くは
 大邦といふは昔はがらも海を隔てては
 出づればあり。訪りしありしは日土
 朝ぶるも天武天皇の御子に大津の御孫に
 みこけりて詩とてしはるかにありされし我朝も
 昔の如くはふり。てや中華も海を隔てては
 一邦といふは昔はがらも海を隔てては
 出づればあり。訪りしありしは日土
 朝ぶるも天武天皇の御子に大津の御孫に
 みこけりて詩とてしはるかにありされし我朝も
 昔の如くはふり。てや中華も海を隔てては
 一邦といふは昔はがらも海を隔てては

和漢朗詠集卷上

春

立春

早春

春興

喜春

春日

春日

暮春

三月盡

三月

寫

雲

雨

梅

柳

花

鄰

飲

藤

夏

首夏

夏初

端午

花橘

荳

立秋

秋興

八月

女

様

雁

納涼

蓮

蟬

子姪

秋暎

九月

萩

前栽

虫

晚夏

萩

扇

七夕

煉衣

九月書

蘭

紅葉

麩

春 つばし 上

冬 ふゆ

初冬 はつふゆ

燈火 とうか

氷 こおり 付 つ 助 すけ

霧 きり

冬夜 ふゆのよ

霜 しも

教 おしえ

掛衣 かき 三

歲暮 としごけ

雪 ゆき

佛名 ぶつな

春

立春 りっしゅん



春 はる 潜 ひそ 州 しゅう 不 ふ 約 やく 芳 ほう 乃 の 之 の 復 ふた 迄 まで

美 み 久 く 安 あん 将 しょう 希 き 雨 あめ 露 る 思 おも

池 いけ 凍 こ 凍 こ 頑 がん 風 かぜ 解 と 梅 うめ 面 めん 雪 ゆき 刺 さ 寒 さむ

多 た 少 せう 之 の 美 み 付 つ 助 すけ 乃 の 之 の 復 ふた 迄 まで

平山草和堂藏書再版
増田華鳳校正并書

兼憶

鶴成

早春

柳之氣力條々之動邊に或る水魚も
今日不ら誰か會まむ春風の一呵先
天向の妙を藝者養生者も大暖煖
神のちりももふりやふりやふりや
けふもふりやふりやふりやふりや
のちりやふりやふりやふりや

忠孝

春道

水清田邊道雅種春入枝條柳眼
先生和風新首具續あなを流生
東岸西名之柳も途遠く南
枝小枝も梅開なるこ異
紫雲の歌巖人春も半迄ま其言
氣舞片振新柳葉水消波江口

元模

保胤

都良香

野村

庭増氣多晴泊疎林多意若霜紅

いそそくくたるものつらくつさゆいひ

やうらやうらとこころあはれひやとに

みさのせえらつたるひのきさく

んこいまは物さうさうさうさうさう

春興

素性法師 平兼盛 正澄 志賀皇子 紀納言

花下忘酒得成多指前勅許昔春風

野菓芳花紅綠地遊綠縹紅出天

秋深お花ささきさき後分と陽気

山極浪好桃日曝紅粉之梅門

柳浪春物風宛鞠若春綠

着野原海に物結由と春風必難後

野相公 紀齊名

林花不汚晴并為天外好綠草有玉

筆秋老也家思約酒美月不知情

りしつたつおの言ひ人かひもあれや
さうさうの心こころもさうさう
けりかすかたりとさうさうさうさう
こころおのりさうさうさうさう

春夜

宵燭の光もさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう

子日

併本根の摩丁腰習風素く糸

糸也和葉美也略の和氣味く古酒

傍松根の摩後もさうさうさうさう

花の掃取二月の雪もさうさう

尊敬

躬恒

忠岑

赤人

菅三品

縁のりよりの母のよふ山やうりあつりせ
ちよみきりたあふとくうの南
あふさやうもあつれるゆりもあふり
まふもあふりあつるゆりもあふり
縁のりよりの母のよふ山やうりあつりせ
あふさやうもあつれるゆりもあふり
まふもあふりあつるゆりもあふり
縁のりよりの母のよふ山やうりあつりせ
あふさやうもあつれるゆりもあふり
まふもあふりあつるゆりもあふり

忠岑

大中臣
鉄直

藤清正

養蒙

野中一葉葉中葉中葉中葉中葉中葉
痛下和養信人属之葉中葉中葉中葉中葉

あふさやうもあつれるゆりもあふり
まふもあふりあつるゆりもあふり
縁のりよりの母のよふ山やうりあつりせ
あふさやうもあつれるゆりもあふり
まふもあふりあつるゆりもあふり
縁のりよりの母のよふ山やうりあつりせ
あふさやうもあつれるゆりもあふり
まふもあふりあつるゆりもあふり

人丸

赤人

貫之

二月二日付梅花

春未過也梅花吹不風化源仁の葉
善の善因の二朝天醉の葉

王維

うららかに... 花も... 又も... 我身...
ゆき... けしき... けしき... けしき...
けしき... けしき... けしき... けしき...
けしき... けしき... けしき... けしき...
けしき... けしき... けしき... けしき...

同三月

くまの... 一... 一... 一...
くまの... 一... 一... 一...
くまの... 一... 一... 一...
くまの... 一... 一... 一...
くまの... 一... 一... 一...

花... 花... 花... 花...
花... 花... 花... 花...
花... 花... 花... 花...
花... 花... 花... 花...
花... 花... 花... 花...

鶴... 誰... 誰... 誰...
鶴... 誰... 誰... 誰...
鶴... 誰... 誰... 誰...
鶴... 誰... 誰... 誰...
鶴... 誰... 誰... 誰...

炎不花雪夢多今珠烟未也

謝觀

烟榜山雪雪山雪雪山雪雪山雪

秋吹雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪

寫塵海了未花上雪雪雪雪雪

感同教お相求極海志者く德ま精

會空氣の吹況新吹真確の律也

無水の神皆水精練乳を嘉柏肉也

之智少幼願る軍お新花

同

新踏女今雪者雪雪雪雪雪雪雪

西橋はあなる中吹吹吹吹吹吹吹

同

あながれくあくあくあくあくあ

素性

あながれくあくあくあくあくあ

兼異女御

花新 毎日 初陽 暎る 光 映 対 爲 昔 頃
あはれ けしき ごとく ごとく ごとく ごとく ごとく ごとく

斜脚 暖風 之 扇 之 暗 夢 初 年 晴 道
まがし ぬるまぜ かの かの かの かの かの かの

梅 付 子 梅

白 所 有 梅 活 同 水 葉 枝 新 柳 也 城 墻
しろ ところ あり 梅 活 同 水 葉 枝 新 柳 也 城 墻

梅 名 常 事 畫 花 院 今 之 柳 久 和 松 入 津 津
うめ こと こと こと こと こと こと こと こと

湖 堂 暎 雲 新 封 裏 修 續 美 風 集 慶 元
うみ だう 暎 雲 新 封 裏 修 續 美 風 集 慶 元

吟 之 柳 久 看 和 沙 多 惜 梅 花 為 之 歌
うた の 柳 久 看 和 沙 多 惜 梅 花 為 之 歌

去 嶺 卷 々 雲 浮 身 伴 憐 人 度 方 楳 楠
いづ 嶺 卷 々 雲 浮 身 伴 憐 人 度 方 楳 楠

誰 言 春 色 也 深 東 必 露 暖 菊 枝 花 作 弄
たれ 言 春 色 也 深 東 必 露 暖 菊 枝 花 作 弄

青 絲 綠 也 濁 柳 皇 冠 成 慶 元 歌
あお 糸 緑 也 濁 柳 皇 冠 成 慶 元 歌

いづれか... 安倍廣庭
射極 赤人

紅梅

梅合... 橋正道

都... 衣

省... 前中書

仙... 紀齊名

友則

花山院

柳

花

花明玉氣軒池九指磨樣

叫世山斜存室子密成

池多淫淫屋深水香光燭火燒

遙見人家花役入名滿老殘之親疎

室日慈閣高似子孫方親之玉

波枝淫淫表素心入五入

誰謂如多之濃艱似可波愛

多淫謂名元淫性善激兮歎勤居

欲淫之如易南如抱朴之精清

室邪謂之有名蜀人深文之錦業煉

微自竹結唯當爾裁之樣何素凡

藤

恨望無思二月盡空夏為涼多雨
 氣微露然花之委竹燦中
 兼葭偏家未衣之氣心志意
 田子浦のこころ
 くれんやのち
 くれんやのち
 くれんやのち

夏

更衣

宵靡於殘燈看燭開箱衣帶濕
 生尤欲待家
 首夏

白
 納涼
 清風
 涼生
 秋涼
 不覺
 得
 房
 母
 熱
 臥
 從
 終
 心
 動
 以
 身
 涼

納涼

珠
 尚
 海
 月
 名
 月
 得

珠
 尚
 海
 月
 名
 月
 得

珠
 尚
 海
 月
 名
 月
 得

珠
 尚
 海
 月
 名
 月
 得

珠
 尚
 海
 月
 名
 月
 得

珠
 尚
 海
 月
 名
 月
 得

珠
 尚
 海
 月
 名
 月
 得

珠
 尚
 海
 月
 名
 月
 得

中勢

貫之

英明

匡衡

類基

能堂

兼展秋秘南砌浮花并露及金露
 烟冪空庭清風曉氣流紅衣白露秋
 為井枝極繁者潭為空動是莫在
 疎月支看其山曲便是去君中下也
 經為題目佛力能去汝等才桂石根
 此詩在昌
 為憲
 兼喜御製

郭

一聲山鳥吟
 此詩在昌
 為憲
 兼喜御製

夢

大庭... 想... 秋... 天...
あつた... たいてい... じょう... せう... せん
あつた... たいてい... じょう... せう... せん
あつた... たいてい... じょう... せう... せん
あつた... たいてい... じょう... せう... せん
あつた... たいてい... じょう... せう... せん
あつた... たいてい... じょう... せう... せん
あつた... たいてい... じょう... せう... せん
あつた... たいてい... じょう... せう... せん
あつた... たいてい... じょう... せう... せん
あつた... たいてい... じょう... せう... せん

秋... 映...
あき... かげ

相思... 秋... 映...
あき... かげ... せう... かげ
あき... かげ... せう... かげ
あき... かげ... せう... かげ
あき... かげ... せう... かげ
あき... かげ... せう... かげ
あき... かげ... せう... かげ
あき... かげ... せう... かげ
あき... かげ... せう... かげ
あき... かげ... せう... かげ

煉夜

煉者名夜安子眠下宿的秋
州燭宵燈歌萬結由亦室安
生鐘漏初名秋星の多曜也
燕子橋中霜川水煉春日為一人也
夢事夢寐深人乞以秋宵也其好也
萬應洲東流舟夢松松美歌万重心

あゝ東のこゝろのあつたるる
たのしくしるるるるるるるる
あゝとととととととととととと
はははははははははははははは

人九
躬恒

八月十五夜
秦旬之つ子條里燭の如教
漢家二十六年迄の如教
織錦機中己好お思の字

公兼佐

採其葉以漢氏易者軍採官人衣
 乃舊法也然又亦其花物散也
 先之連其其也燒其之博之漢
 了十之其傷其新其書之如海川
 吾以漢氏之得者上壽者之千
 好家地極其味也日精而強

年一類者古百箇守本

和空屋也其味之淡白而合之極
 其代積之則也成法也

中務

菊

霜降其葉之白而菊新也一也

其色在才偏也其葉也其色也
 其法也其葉也其相也其相也

元模

移物之業 一人殿

都縣村園皆以公園家園字不...

園苑自然之俗者 權離不...

業惠公所推定後 草草河川學...

久...

...

九月書

...

...

...

...

...

これにておく秋のこともさるるもく物え
らつておきぬらつ素もくさるる

兼盛

女郎花

不毛地也 蕪草 俗呼 爲 女郎 園

名 戲 之 契 借 光 忌 也 義 也 也 似 集

あやめ ちかやめ ちかやめ ちかやめ
あやめ ちかやめ ちかやめ ちかやめ
あやめ ちかやめ ちかやめ ちかやめ
あやめ ちかやめ ちかやめ ちかやめ

性慎

良枝

順

萩

曉露 津 爲 名 比 夜 日 夜 攀 於 一 月 情

秋の 萩 花 一 月 情
あやめ ちかやめ ちかやめ ちかやめ
あやめ ちかやめ ちかやめ ちかやめ
あやめ ちかやめ ちかやめ ちかやめ
あやめ ちかやめ ちかやめ ちかやめ

人丸

伊勢

元輔

蘭

上

不栽

多負栽花忙月借少雨以養約係花
自是守森家傳他善樹有栽林善秋
困思看山香六日空也高岩塔白因
常非種處元亮為老花時快世書
躬種

紅葉

不堪秋葉多悲又老涼風言白
黃瀕瀕林葉有老以後薄水淨世風
翠中清淺玻璃水底素秋病補林
外物獨醒在洞色餘波合方轉深夢

若玉裝重斜立相
書衣危叙羈中贈風
指滿冰浪三舟
あまのりあよとらり
たりとあはさなりけ
たたりん

歸鴈

山腰收扇斜素帶
水直新紅素卷巾
まうはらんそらとら
たりとあはさなりけ
たたりん

伊雜 都在中

後中書王 友則

寄

切く晴之下
秋天思帰心
衣束秋林
山作西阿
切く晴之下
秋天思帰心
衣束秋林
山作西阿

上

十一

壽

竹秀曉統衛家日數時

報熟多身好人松松老如也

林まりの

たさり

栲衣

相公

深養父

友則

分月九月

小斗量者

栲衣

裁

風庭

年

後中書王

後中書

直轄

篤茂

白

白

武皇風不在以故飛鳥の
 南情不殘 穀綴之 狐之 朕
 越以得 知物浦 鶴心 悲業 與 操 舟
 立お庭 之 願 為 鶴 生 立 燈 子 之 鳥
 源女 軍 才 秋 乃 之 替 主 卷 之 表 於 也
 源 聖 明

みありのこ
 ありのこ
 いまのこ
 いまのこ

水封の面 因 音 浪 音 珠 杯 願 見 之 毒
 柔 妙 鶴 愛 之 雲 霧 水 結 孤 能 為 之 水
 相如

喜球

水清刀水多... 喜球... 入梅

水清刀水多... 喜球... 入梅

胡春淮... 喜球... 入梅

... 喜球... 入梅

震

... 喜球... 入梅

... 喜球... 入梅

佛一名

香火一... 佛一名

香月... 佛一名

... 佛一名

兼盛

目下

目下

Handwritten text in cursive style (sōsho), likely a preface or commentary, written vertically on the right page.

和漢朗詠集上巻





